

出席者：11名（長妻昭・長妻謙三郎さん参加）

はじめに、今年結成3年目を迎えるに当たって、ガラガラにっポンのめざすものを改めて確認しました。（生活者通信2月号原稿を読んで）

（議題1）21世紀のライフスタイルを考える

第3回「教育について」5月24日（土）明星大学高橋史朗教授を迎え「ホリスティック教育が大人を変える、子どもを変える」講演会とディスカッション。ホリスティックとは全体的、包括的、全関連的という意味で、子供たちの心的外傷を癒し、現代教育の病巣を克服するためには、「感性を活かすホリスティック教育」による第3の教育改革が急務である。このようなテーマになる予定です。特に子育て真最中のお父さん、お母さんの参加を呼び掛ける。

（原）

（議題2）即反応、即発信するプロジェクトチームを結成。新聞、雑誌などの記事に対して、「怒り」「同意」を新聞社・雑誌社・当事者に即発信する。

（大崎）

（議題3）次回までの宿題

ガラガラにっポンのキャッチフレーズを考える。

どんな会なのかを短く説明できるもの。

（議題4）ガラガラにっポンのユニフォーム製作についてこれからの活動に際して、ユニフォームを作ってはどうかという提案がありました。作るならどんなものかを含めご意見をお寄せ下さい。

（報告1）12月のパソコンセミナーの報告

参加者10名（非会員3名）セミナー代¥30,900残り¥8,600はアクティビティと折半。

（報告2）新会員の紹介：東敦子さん

本の紹介「人間を幸せにしない日本というシステム」
—支配者を支配せよ—

◇3月定例会の案内

日時：3月29日（土）13:00～15:00 場所：未定

【D】大前研一通信購読者拡大委員会（治田桂四郎）

・-----・
| 【大前研一通信・講読会員申込案内】 |
| 「1. 郵送 2. パソコン通信」の別を記入。 |
| 郵便口座番号：00110-3-709334 |
| 振込名称：大前研一通信。 年会費：1万円。 |
| 問合先：TEL 03-3263-2411 FAX 03-3263-2430 |
・-----・

維新の会としての新しい活動分野を提案します

埼玉県所沢市 河登一郎

1. 活動の概要

- (1) テーマ：行財政改革に関するものなら何でも良い。
- (2) 対象：あらゆる団体・会社・グループの、
- (3) 発表・著作・政策・研究・社説・記事・意見に対して、
- (4) 平成維新都民の会（又はその中の有志又は首都圏合同）として、
- (5) （平成維新の精神・理念に沿った）意見・提言・批評・助言・賛否・激励・コメントなどを文書にして伝える。
- (6) 将来、これらを整理・補足・訂正を加えて刊行する。

2. 具体例

- (1) 平成9年度予算案に対する日経社説に関し、日経新聞社に対して、全面賛成だが〇〇〇を加えると効果倍増と提言。
- (2) 特殊法人（×××事業団の存否）に関する行革委原案に対し修正意見／要望。
- (3) 民主党基本政策案に対する評価／提案。
- (4) JR東日本社長に対する激励意見（整備新幹線問題で）。
- (5) 郵政3事業民営化に関し、行革委検討中の答申案に対する要望・注文・具体的提言。
など、やるべきことはいくらでもある。

3. 趣旨説明／問題意識

- (1) 政官財の利権のトライアングルとそのベースになる「大きい政府」が諸悪の根源であり「小さい政府」を目指すべき気運はマスコミを含めかなり浸透しては来たが、
- (2) 平成9年度予算案を見る限り族議員の跳梁によ

り政府の政策としては殆ど改善されていない。

- (3) しかし、世論はかなり醸成されているので、あと一押しすればかなりの効果が期待できるのではなからうか。
- (4) 維新の会として独自に提言を発表し、政府諸機関への影響力が行使でき、具体的政策に結びつけられれば、それに越したことはないが、現状の組織・スタッフではきちんと整理された提言をマトメ上げて公表することが、現実的に困難と思われるので、上記の如く他団体案を利用することにより、効果的な提言が可能となり、且つ具体的政策や諸機関・個人の活動に少しでも有効な貢献ができると期待したい。

4. 組織・メンバー

- (1) テーマ毎に複数有志で勉強／討議し、提言をまとめる。
- (2) 従って参加メンバーは固定せず、その都度テーマ毎に参加者を募る。
- (3) 既存勉強会との合同もできる。
- (4) 予想される問題点は、維新都民の会としての意見がまとまらぬ場合だが、個人では与える効果に限界がある故、維新の理念に合致している以上、維新の会の名前を有効活用したい。
- (5) 組織名（案）：「提言委員会」「もの申す会」「これでいいんかい」等。

5. 発足／頻度（目標）

- (1) 即時：平成9年2月。
- (2) 小さいテーマなら毎月1回位提言できる。少し大きいテーマでも、2～3ヶ月に1回はやりたい。
- (3) 3年経過後刊行物にまとめる（目標）。